

事務執行状況点検評価報告書

平成24年度事務事業分

紀美野町教育委員会

はじめに

紀美野町教育委員会では、本町長期総合計画において、“豊かな教育をめざすまちづくり”を支える柱に、「学校教育を充実し、次世代を育てる」と「文化・スポーツ活動を通して社会教育を振興する」を掲げ、それぞれ具体的な事務事業に取り組んでいる。

これらの事務事業を推進するに当たり、随時点検評価を行い、その結果に関し、報告書を作成した。

平成24年度に実施した事業について次のとおり点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめた。

平成25年 9 月

紀美野町教育委員会

点検・評価等について

I. 実施根拠

点検・評価の実施については、教育委員会の責任の明確化や体制の充実等を図るべく、紀美野町教育委員会評価等実施要綱に基づき実施した。

II. 評価等の対象

評価の対象は総合計画に基づいて、前年度に実施した事業のうち主なものについて評価をいただいた。

III. 点検・評価の方法

点検及び評価に際し、必要性、効率性、有効性、公平性等の観点から分析し、それぞれの項目別に5段階評価する「5:的確」「4:良好」「3:妥当」「2:要検討」「1:要改善」で表した。評価の今後の方向性として「廃止」「見直し」「休止」「継続」「拡大」の5つの方向性で示した。評価の客観性を確保するため、教育委員会評価委員会を設け、外部の立場から評価方法や観点などについてご意見ご助言をいただいた。

弓庭 武彦

評価委員の委員氏名

津田 修吾

西峯 正明

IV. 評価等の結果

教育委員会の総合評価の結果は、次のとおりである。

(1) 評価の判定別事務事業数

評 価	5	的 確	十分に成果を発揮している	1
	4	良 好	ほぼ成果を発揮している	37
	3	妥 当	おおむね成果が上がっている	4
	2	要検討	成果が上がっているとは言えず要検討	0
	1	要改善	成果がほとんど上がっておらず見直しが必要	0

(2) 今後の方向性別事務事業数

方 向	廃止	見直し	休 止	継 続	拡 大
事業数	0	1	0	40	1

V. まとめ

今後の事務事業について、事務事業の目的、必要性等を踏まえ、常に問題意識を持って事務事業の遂行に当たる必要がある。児童数・生徒数が減少する中で、学校の教育環境の充実に努める。また、厳しい経済状況が続く中、行財政改革により財政の健全化が求められているが、今後実施される事業の優先度や緊急度等を勘案し、計画的、重点的な事業実施に努める必要がある。

点検・評価結果

1. 教育委員会事業

目的： 教育行政について審議をはかり、教育行政の具体的な施策推進を図る。

内容： 教育委員会の委員の構成は、性別では男性 4 名、女性 1 名となっている。

教育委員会の開催、学校訪問、実態研修会情報交換会等の参加。町内小中学校の各研究会に参加し、成果の状況確認をする。

委員 2 名が退任され、新たに 2 名の委員を任命しました。また委員 1 名が任期満了となり再任された。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：昨年度は、定例と臨時それぞれの会合を 9 回も持たれており、内容も本町の教育を高めるものとなっています。ともすれば、教育委員会の会議が形骸化していると言われる中であって、このことは大変喜ばしいことであると思います。また、各校の研究会等で教育現場の実態を細やかに捉えられており、学区制などそれぞれの諸課題についても迅速に取り組みされているように思います。今後とも、紀美野町の教育推進の更なる向上のため、各委員のそれぞれが深い研修と委員会の責務の遂行にご尽力を果たされますよう期待いたします。

課題・方向性：委員会への上程内容及び委員の日程等を調整し、必要に応じて委員会を開催する。また、学校訪問、各学校行事等への参加を企画する。

2. ALT 設置事業

目的： 中学校・小学校で英語を教え、地域住民との交流を深めることにより、外国語教育の充実と地域の国際交流の進展を図る。

内容： 中学校における外国語教育の補助、小学校における国際理解教育の補助など

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各保育所や小学校、中学校で ALT の先生方の指導補助によって効果的な英語学習（活動）が行われていることは、本町の誇りでもあります。ALT の方の人となりにもよりますが、限られた採用条件のなかで、進んで子どもに関わっていただいていることはありがたいことです。時代進展が激しい中であって、今後とも地域に溶け込み、英語のコミュニケーション力を高めることが求められます。そのため、人数の確保とともに、優秀な人材と熱意のある方の採用を願うところです。

課題・方向性：JET を通じて採用した場合、最長で 5 年しか任用することができない。優秀な人材を当方で選定することができない。

小学校での授業数が増えれば、現在の 2 名体制で対応できるか、ALT の配置及

び活動内容を検討していく。

3. 適応指導事業（不登校児童）

目的： 不登校等の児童生徒並びにその保護者に対する教育相談による支援と、引きこもりからの改善途上にある別室登校の児童生徒の学習支援を図る。

内容： 県教育委員会より野上中学校並び美里中学校へスクールカウンセラー1名が配置され、年間44日の教育相談日を設けた。教育相談は、保護者並びに学級担任等に対する間接的なものと、別室登校生徒への直接的なカウンセリングを実施している。また、国の交付金措置による学校教育支援員を4小中学校に配置し、そのうち3小中学校では、別室登校児童生徒に対する個別的な学習保障として活用した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 本事業によって、不登校の児童生徒の数が減っていることは好ましい傾向にあると思います。また、カウンセラーの方が直接家庭訪問をされていることもあり、何よりも心強いと思います。また、学校教育学習支援によって、個々の子どもによき支えとなり、意欲的な学習参加を促していると思います。

なお、「中1の壁」と言われているように、中学校入学に当たっての周到的配慮が望まれます。とりわけ保護者との教育相談など、日常的に行っていただき、よりきめ細かな取り組みがなされるようお願いしたいと思います。

課題・方向性： スクールカウンセラー配置に係る国の補助金が削減され、スクールカウンセラーの教育相談日・時間が減少傾向にある。また、これまでの事例によると、不登校等のきっかけとなる気質は小学校の段階で表れている。町内小学校の保護者からの相談依頼が少なく、小学校の保護者への啓発を保護者会 PTA 活動などを通し積極的に図る。また、学校教育支援員の活用面では、資質の向上を図るための研修等の実施に県教育委員会をはじめ、近隣市町教育委員会と共同での実施等を働きかけていく必要がある。

4. 研究指定校事業

目的： 学校全体及び教師による教科・領域の指導方法や効果の向上を図る。

内容： 県「学力向上推進事業」の主旨に基づき、本町では、野上小学校・下神野小学校及び野上中学校・美里中学校で指定を受け、授業改善・補充学習への手立てについて、教職員全体で実践していくシステムづくりに取り組んだ。これらの研究実践を支援するために、各校4万円の補助金を計上した。野上中学校での実践報告書は、県ホームページに紹介されている。

判定： 3 今後の方向性：継続

評価委員の意見： 町内あげて学力向上をめざし、その授業改善や指導法の工夫に取り組

まれていることは大変頼もしいかぎりであります。一気に学力向上の成果をみることはできませんが、従来の取り組みを継続するとともに、個々に応じたきめ細やかな実践を重ねていただきたいと思います。そのため、可能な限りの補助をもとに、各校が独自の研究実践に積極的に取り組めるよう期待します。

課題・方向性： 補充的な学習や発展的な学習、特別支援を要する子どもへの配慮を視点とした授業改善を図る取り組みを中心に「指定研究」として県の認可を受けている。また、海草地方学校給食研究会より、野上小学校が平成25・26年度の研究校に指定されている。今後も、県及び海草地方の研究事業をきっかけとして、町事業補助金を活用して学校教育の充実を推進する。

5. 学校施設整備事業

目的： 児童生徒はじめ、教職員等が最適な学校環境の中で生活を送れるよう、各学校施設の損傷箇所や危険箇所等の改修、修復等を行う。

内容： 各小中学校施設の施設機器、教室等の改修、修繕を実施した。

主な整備事業として、中学校給食実施に向けた校舎の増築及び改修を行った。

また、大地震等の発生に備え、校舎内に設置されている棚等を固定し、転倒防止対策を行い、児童生徒の安心安全環境の向上に努めた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 課題とされていた中学校給食が実施されることになり、そのための増築・改修が迅速に行われていることに高く評価したいと思います。また、東南海地震発生に備えて、校舎の網棚や棚の固定など、児童生徒の安全対策を第一に力を注がれたことも大変重要なことと考えます。

今後も地域の方々の避難場所としてのさまざまな設置・整備などとともに、老朽化した学校施設の改善に取り組まれるよう切望します。

また、今後児童数減少により、空き教室が増えるため、その効果的活用をも検討していただきたいと思います。

課題・方向性： 大地震等の発生に備え、住民の指定避難所となっている各小中学校の体育館の天井等の落下防止対策を平成25年度～平成28年度において進めていく。また、老朽化した野上中学校の大規模改修工事を行う。

今後、各学校施設は、年数の経過に伴い、設備改修、修繕の増加が予想される中、学校現場と共に知恵を出し合い、対策を講じていく。さらに、児童生徒の減少が進む中、今後の学校の在り方を検討し、現在の休校施設の維持管理及び活用方法を学校・地元・教育委員会が一体となり、利用方法等について協議する必要性がある。

6. 職場体験

目的： 中学生が、それまでに培ってきた勤労観・職業観を、体験により確かなものとして実感させ、社会人・職業人として自立していく力を身に付けさせる。

内容： 地域の事業所において3日間の職業体験を行いながら、社会のしくみや大人として身に付けなければならない知識・態度や礼儀・マナーを学び、社会の一員として自分を生かすための目標を見出す。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 3日間という限られた中での学習ですが、他の大人の人との挨拶や接し方、コミュニケーションの大事さなど、学校で学ぶ以上に大きな意義を持っています。結果的に、正しい勤労観・職業観を確かにしたり、自分の将来に希望を抱かせたりすることになると思います。また、学校と体験する施設との連携が緊密であり、事前事後の取り組みも重視されているところも良い成果につながっていると思います。

ただ、本町では、「キャリア教育」の充実のために、農業体験と取り組む時期とが合わなかったり、個々が希望する職種と実際企業等の実態とのギャップがあったりするところが課題ではないでしょうか。

課題・方向性： 特別活動・総合的な学習の時間として、各中学校では職業体験が定着している。傷害保険は学校保健安全会を適応、また、自賠責保険は、町教育予算で対応することで体験活動を支援している。生徒が、働くことへの理解や社会との関連をとらえる機会であるだけでなく、各学校は、児童生徒が人生設計を考え、将来への展望をもって教育活動への目的意識を高めていく『キャリア教育』の展開が課題となっている。

不登校や二ートの課題に対して、文部科学省では、小学生段階からのキャリア形成指導を推進している。当地域においても、現存する共育コミュニティ事業のネットワークなどによる多面的な支援体制を基盤として、キャリア教育に関連付けた学習活動を教材化することが課題である。

7. 就学援助事業

目的： 児童生徒の教育機会の均等を保障し、義務教育の円滑な実施を図る。

内容： 教育委員会へ、学校を通じて保護者より申請書が提出され、審査の上認定を行う。認定された保護者に、学用品費等の就学上必要な経費の一部を援助支給する。また、児童生徒の修学旅行にかかる経費を援助支給する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 教育の機会均等を保障するために、個々の就学援助申請を適切に処理されていることは好ましいことと思います。対象者数は、前年度程度ということですが、今後ともその基盤となる家庭の実態を細かに把握し、就学援助を適切に判定されることを期待します。

課題・方向性：年々、認定件数・援助費は増加しているが、適切な運用をしていきたい。

8. 青少年健全育成事業

目的： 青少年の豊かな情操と優れた創造性・社会性を育て、地域社会全体で次世代を担う青少年の健全育成を図る。

内容： 青少年の健全育成を目的とした各団体へ補助金を支出し、それぞれの育成事業を補助する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 近未来の社会を担う青少年を健全に育成することは極めて大事なことであります。関係機関・団体が中心になって、夏の子どもを守る運動や社会を明るくする運動等積極的な取り組みが行われてきました。今後とも関係機関他団体とも連携を図りながら、町ぐるみで青少年を育てていくという意識をもって努めていただきたいと思います。そのためにも、組織が弱体化しないよう、若年者の方々も入っていただけるようお願いいたします。

課題・方向性： 会員の減少、委員の高齢化による団体の弱体化が進む中、今後会員の勧誘等の推進を含め各団体の活動内容を点検し、継続的な活動ができるよう協議を行っていく。

9. 児童館利用事業

目的： 児童に健全な遊びの場を与え、健康の増進、情操を豊かにする。

内容： 児童に遊び場を提供し、町内5箇所で（中央児童館（月曜日～土曜日）・小畑児童館・動木児童館・吉野児童館・吉見児童館（水曜日・土曜日））開館

判定： 3 今後の方向性： 見直し

評価委員の意見： 地域では、子どもたち同士で自由に遊ぶことが少なくなった現代、その中で各児童館を（月～土、地区によっては水・土）開館し、学年差を超えて、児童生徒が健全な遊びや相互に学び合う場所を提供することは、重要な取り組みであると考えます。ただ、児童館のないところや施設されていても参加者が極めて少ない地区も存在することから、今一度地区児童館の存続について、関係者で検討する必要があると思います。

課題・方向性： より良い居場所を提供できるように努める。また、子どもが減少する中で利用実績等を考慮し、児童館活動の見直しを検討する。

10. 学童保育

目的： 児童の放課後の生活を保護者に代わって安全に過ごさせることであり、保護者

の代わりに家庭的機能の補充をしながら、「生活」の場を提供し、「遊び」及び「生活」を通して子どもの健全育成を図る。

内容： 放課後の児童を保護者に代わって「勉強」「遊び」を教えて、自宅と同様な場を提供している。町内2箇所（野上学童・下神野学童）について、祝日を除き（月）～（金）まで開所した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：核家族化、共働きの家庭が多くなる中で、放課後の過ごし方として、児童を受け入れ、勉強や遊びなど児童生徒自身で時間を過ごすようにしていることは、自立性を育てる上でも好ましいこととあります。共働きの家庭が多くなる中で、家庭教育も低下してきています。今後とも指導員の努力によって、子どもたちのマナーや挨拶など規範意識を意識に留意した取り組みを行っていただきたいとします。なお、本事業は保育に欠ける家庭というところに基盤がある限り、家庭との十分な納得が必要なのではないかと思われます。

課題・方向性：家庭の事情に応じて対応して行き、施設内での勉強、遊びの場の充実と野外での活動を今後多く取り入れる。

11. 夢づくり事業

目的： 子どもたちの文化的な学習活動や地域の文化財産を活用した学習活動やそれに係る実践研究推進等、各学校の課題に応じた独自の教育実践及び実践研究を推進する。

内容： かなえたい夢や新しい自分を発見する機会を持つことで、子どもたちの挑戦する心を育成する各学校独自の取り組みに対し、必要経費の支出を各学校に委託する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：固定化した学校カリキュラムを超えて、学校独自のアイデアで教育内容を創造できることは大変価値があると考えます。その充実に向けては、地域の文化財産や新しい地場産業と関わったり、本物の芸術やその道の達人の話や技に直接触れたり、あるいはICTを取り入れたりして、子どもたちの「夢」のある事業にできたらと願っています。そのために、一層中身のある「夢づくり」について学校職員全体でより良い知恵を生み出せるようにしていただきたいとします。

課題・方向性：予算削減の傾向にある中、昨年に引き続き現状を維持できている。児童生徒の文化的な活動に加え、地域（ひと・もの）に関連した体験活動推進の活性化剤となっている。町学校教育基本方針の柱の1つであり、その趣旨を効果的に反映できる各学校の取り組みを検証し、有効な運用を図る。

1 2. 学力体力判断力 UP 事業

目的： 町学校教育推進の柱である「確かな学力」「確かな体力」「確かな判断力」の育成理念に基づく各学校の計画的・継続的な実践研究を支援する。

内容： 知・徳・体の調和を図り、心身ともに健全な児童生徒の育成を目指す各学校独自の取り組みに対し、必要経費の支出を各学校に委託する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 21世紀は知識基盤社会と言われ、徹底した基礎基本の学力が求められています。同時にその知識を活用し、自らの課題解決に向けて探究する力も欠かせません。その意味でも、「確かな学力」「確かな体力」「確かな判断力」の三つの柱は時宜を得ていると考えます。町の支援のもと、各校独自の工夫で、創意ある取り組みが期待できるところです。とりわけ、国体開催を控え学校施設が効果的に使用されて、体力づくりを積極的に取り組まれることを希望します。

また、本町では、少人数学級が増える傾向にあります。それを良さと捉え、個々に応じた的確な指導を重ね、それぞれの力を着実に伸ばして行ってほしいと思います。

課題・方向性： 予算削減の傾向にある中で、本年度は現状を維持できた。平成27年度開催される和歌山国体までに、本町児童生徒の体力向上を全国レベル以上にする最優先目標を掲げ、各学校独自の実践を支援している。学力向上では、本町の教育水準を維持していくために、各学校において先進的な実践を取り入れている。研究発表会・学習会への教員派遣や外部講師の招聘など、各学校の実践の交流を強化することが課題となっている。

1 3. 教材備品等の調達

目的： 各教材及び図書等を整備し、児童生徒がよりよい環境の下で学習に励み、学力の向上を図る。

内容： 学校からの要望により図書及び教材等を整備する。本年度は、教材備品としてパソコン、学校用医療用備品等の購入を行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 学習は、児童生徒の知的興味や問題関心から始まるものです。時代が急激に変化進展する中、図書の整備はもちろん、子どもたち自身から身近なところに備品を設置し、駆使できるよう学校環境づくりが大事になってきます。すでに各先生にパソコンと必要数の電子黒板を備えられていることは好ましいことと思います。今後とも、学校が求めているさまざまな電子機器等を各教室に設置され、教育効果を上げていただきたいと思います。

課題・方向性： 学校の教材備品の整備については、要望等を精査し、必要性を考慮し整備を行っていく。

14. 通学バス運行事業

目的： 学校の統廃合に伴う通学時間の短縮手段として各通学区域に運行を行う。

内容： 通学バス6台（志賀野路線、柴目長谷路線、真国路線、国吉路線、上ヶ井・三尾川路線、毛原路線）及びマイクロバス1台（各学校の校外授業・各クラブ活動等）で運行を行っている。

毎年乗車する児童生徒が変更するため、バスを実走させ、正確な時刻表及び効率のよい運行経路を決定している。また、日常は車両管理、運行状態を確認するため、バス運転手と月1回の打合せを開催し、発生した問題点及び改善点を協議し安全運行の対策を講じている。

児童生徒の安全を第1に考え、運転手、学校、教育委員会の報・連・相が確立されてきているので、バス運行の資質が向上されている。

判定： 5 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：児童生徒数の減少傾向は益々続くと考えられますので、学校統合による本事業の必要性は言を俟たないところです。事業費の増加も重要課題であると思います。現状での運営が経営の面からやむを得ない状況であろうと思います。現在安全運行、安全運転のために月1回バス運転手との打合せ会を開会されているとのこと、児童生徒の安全を第一にバス運行の資質向上に努められるようお願いいたします。

課題・方向性：・総括として当事業については、完全民間委託にした場合、現在事業費の2倍以上の経費が必要となるため、現行の中で更に広い視点での安全性の向上を目指す。

- ・車両管理・購入については今後、児童生徒数の推移を考慮し、必要に応じて、車両を更新していく。（車両購入については、国費補助等を活用する）

- ・日常の車両管理については、定期的な指導、確認を行っていく。

- ・運転手については任期（70歳まで）に伴う新規運転手の確保を幅広く、早めの募集を行う。

15. 町民一斉清掃事業

目的： 子どもから大人まで、地域のみんなで力を合わせ、自分たちの町を自分たちの手で美しくする。

内容： 毎年5月と10月の第3日曜日に行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：地域に暮らすみんながいっしょになって故郷の環境美化に取り組むことは、環境問題への関心を深めるとともに望ましい人間としての規範意識をも育てることになります。同時に日ごろ疎遠になりがちな地区の人々の交流の場ともなっています。この事業は、住む周りの美しさは人の心の美しさにつながっていくものです。ただ、地区によりますが、子どもの参加が見られないところもあり

ます。今後とも本事業の趣旨の徹底を図れるよう希望いたします。

課題・方向性：一斉清掃は毎年決まった日に実施されているが、地域により行事等に合わせ行われているところもあり、地域の人達が協力し町をきれいにする運動を継続的に進められるよう検討をしていく。

16. 子ども祭り

目的： 子どもたちに体を動かしチャレンジする喜びと仲間とのふれあいの大切さを体験する。

内容： 児童（315人が参加）が各コーナーに分かれてパン、もちつき、飛行機、マガタマ、クレープなどの作成とカロリング、カプラ、チャレンジコーナーを行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：体験欠乏症とも言われる子どもたち。多種の興味を引く遊びにチャレンジすることは、物事に対する新しい発見とともにやり遂げた喜びを味わわせる絶好の機会でもあります。従って制作的な遊びでは、子どもにできるだけ活動の場を与えて彼ら自身の手で作らせるように配慮したいものです。なお、今後とも開催に当たっては他の少年団団体とも日程調節など行い、多くの子どもたちの参加を募っていただきたいと思います。

課題・方向性：子どもたちのニーズに合うよう、楽しく遊べ、チャレンジできる、コーナーの創設とみんなが参加しやすい祭りを考えていく。

17. 校長会・教頭会

目的： 町学校教育基本方針の重点目標「校風の樹立」の具現化及び県教育委員会との連絡調整を図る。

内容： 事業実施にあたる留意点等の周知並びに各学校教育活動の見直しと改善をすすめるための情報交流を図る。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：校長会が定期的に持たれていることは、町教育の目標の具現化に向けて欠かせないことです。また、さまざまな指導伝達を受けることは、各校の教育実践を漏れなく確かなものにしていきます。また、開催ごとに当番校独自の教育実践が提起されることは、町全体の教育力アップにつながっていると思います。

課題・方向性：開催時期・主催は校長会・教頭会となっている。開催時期がそれぞれ独自に計画されているため、各課・センターの事業実施時期との調整は難しい。校長会は総務学事課が毎回出席、教頭会は必要に応じて総務学事課担当が出席し、

協議や指導を行っている。管理職のリーダーシップを支援できるよう当職から提示する内容に工夫を加えることで効果を高めていく必要がある。

18. 紀の国緑育推進事業（元気な森の子事業）

目的： 和歌山県の豊かな森林や林業について実際に体験することで、林業の現状や森林保全などについて学習する。

内容： 県補助事業を受け、林業や森林について学習する。また、林業を行っている現地へ行き、実際に森林観察や間伐体験などを行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：木の国和歌山に育つ子どもたちにとって、本事業は故郷の自然を守り育てる上で絶好の機会です。学習はともすれば、机と椅子に固定させてのものになりやすいものです。本町の児童も学校を飛び出し、現地に赴き、実際に森林観察や間伐体験、木工などを行っています。この事業は、林業の現状や森林保全の大切さを体得する貴重な体験学習となっていると思います。

課題・方向性：木材の加工など、林業の実体験は子どもたちにとって大変有意義な体験となっている。今後も環境資源の大切さを学び、環境問題に関心が持てるよう、継続的に実施していく。

19. 子ども見守り隊事業

目的： 各小学校において、子どもが安心して登校できるようにボランティアで見守る活動を行っている方々の活動をサポートする。

内容： 地域関係者・学校関係者が、登校時に各地域で声かけを行い子どもの安全を見守った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：子どもの朝の登校の様子を見舞ったり挨拶をかけたりすることは、子どもに安心感を与えるとともに、明るい一日のスタートを切ることにつながっていると思います。また、ボランティアの方がそれぞれの地域の子どもの様子を知ることになり、学校との連携も深めていると思います。今後は、地域の事情にもよりますが、可能とするところから下校時の見守り隊の結成を促していただきたいと思います。

課題・方向性：地域の方々にボランティア活動への参加を呼びかけ、組織の充実を図り、下校時の見守り隊組織づくりを検討していく。

20. 補導・夜間補導事業

目的： 紀美野町に住む子どもたちが不良行為や問題行動の段階で、子どもに対して適切な助言や指導を行い、非行を防止する。

内容： 野上八幡宮祇園祭や、きみの夏祭り、夜店での補導その他にも、夏休み夜間補導5回子どもたちの集まりやすい場所を重点に補導活動を行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 過去この事業が定着していることもあり、問題となる事象が発生していないことは好ましいことと考えます。子どもたちの行動範囲も時とともに変化しつつあるように思います。今後も学校と家庭、地域、関係機関との連携を深め、子どもの非行防止に努めていただきたいと思います。

課題・方向性： 地域や関係機関と協力し、非行防止への啓発活動を重点に行う。問題行動・不良行為など起こした子どもについては進学先、就職先の追跡を行って見守っていく。

生涯学習課

1. 社会教育委員

目的： 生涯学習について審議し、計画や推進を図る。

内容： 時代の変革に対応した生涯学習の成果をあげるため、町づくりは人づくりという理念を基に「紀美野町生涯学習振興計画」を作成し、社会教育委員会（9名）の意見をいただきながら、それに基づき、現状に即応した具体的な実施計画を立て、社会教育指導員と共に企画運営に努めた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 生涯学習については、社会教育委員会において大枠を審議いただいています。委員会に於いて、本町の実態に即応した「紀美野町生涯学習振興計画」を策定されて、文化面・スポーツ面・公民館活動等多彩な事業を実施され、大きな成果を上げていると思います。なお、時代の変革に対応した生涯学習の成果を上げるため、若年層に受け入れられる学習や活動を展開することが大切だと思います。そのためには社会教育委員の若年年齢化も考慮されては如何でしょうか。

課題・方向性： 生涯学習の今後の展開について、社会教育委員と共に計画を進めていく。

2. 文化祭

目的： 地域に根ざした文化活動の推進と文化に親しみ学びの機会とする。

内容： 住民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるため、日頃の活動の成果を発表する場として中央公民館・文化センターにおいて実施した。また小川・志賀野地区公民館においても作品展示会（芸能部門もあり）を開催し、それぞれの公民館、地域の特色を生かした内容となっている。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：年に一度の町民全体の文化祭です。それに向けて、個人やサークル、講座参加者など精いっぱい取り組みを公にすることは大変有意義なことです。苦勞して作り上げたという自信が明日の生きる力を湧出し、まさに生涯学習の幹となるものです。開催後も各種の文化活動が活発に活動されていることもその証左です。開催運営等多忙を極めるとは思いますが、今後とも参加者の拡大等、いっそう活性化されますようお願いします。

課題・方向性：11月3日の文化の日に合わせて、開催していきたい。
地区公民館は町文化祭以降で開催していく。

3. 文化協会展

目的： 町内の文化団体相互の連絡を密にし、郷土文化の発展を図り、明るい町づくりに寄与する。また、子ども達の絵画を展示することにより、制作意欲を高めると共に、励みとしていく。

内容： 23団体（会員数293人）が加入し、春の文化協会展、ふれあいステージの開催、研修を実施するなど文化性の高い町づくりに貢献した。

各保育所、小学校、中学校の生徒の絵画を本庁・支所・中央公民館・文化センターに4ヶ月毎に展示を行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：この文化協会展のおかげで、成果発表の機会が春にも設けられていることは、サークル活動者にとって励みになっていると思います。しかしながら、現状では文化祭ほど住民には知られていないようです。若年層の参加を促すためには、広報活動とともに、会員それぞれが個々によびかけることも重要であると思います。

児童生徒の絵画を役所等に年間3回の頻度で展示されていることは、子供の制作意欲を高め、保護者の励ましも受け、より優れたものにしようとする努力につながります。それが自信となり、他の学習意欲の喚起や学力向上に発展されることを期待します。

課題・方向性：文化協会加入者の高齢化を防ぐ対策として、若年層の加入が必要である。
また、子ども達の絵画の展示は、住民から好評を得ていて今後も実施していきたい。

4. 町民大学講座

目的： 町民の教養と知識を高め、文化の向上を図る。

内容： 6月 平野レミ「キッチンから幸せ発信」
6月 神山宣彦「日本のエネルギー問題」
11月 やなせなな「いのちのふるさとを求めて」
11月 木乃下真市「津軽三味線コンサート」
4回の開催で、732人の参加者があった。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：財政的な問題が課題となっていますが、団体相互が相乗りの形で開催されています。とはいえ、年間4回の開催で732人もの方が出席されていることはすばらしいことです。日ごろ聞けない著名な方の講演に触れることは、私たちの物の見方や考え方などを広め深める上で貴重な機会であります。また、内容面に偏りがなく工夫されていることは、参加者を固定化しない上でも重要です。今後とも、アンケートなどを活用し住民のニーズを参考に開催されるようにしていただきたいと思います。

課題・方向性：今後も住民のニーズに合った講師を招き講演会を実施していく。

5. 公民館活動

目的： 地域の生涯学習の核となる施設としてサークル活動の場、文化振興と住民相互の交流の場となるよう推奨していく。

内容： 中央公民館、小川地区公民館、志賀野地区公民館の3公民館が、町民の生涯学習活動の実践をはじめ、文化活動の拠点としてその機能を発揮している。運営について公民館運営審議会、館長、公民館主事が連携し実績・現状を把握し、今後への活動を見据え計画的に展開している。

学習内容の多様化に伴い、公民館活動が盛んになり、年々サークル数が増え、夜間は部屋数が不足している現況であるが、学習の場、交流の場となっている。また、公民館が設置されていない地域では、世代交流センター、真国区民センター、集会所等を利用し活動できるよう関係機関と連携している。

また、読書の推進のため、図書の実績と読書活動の啓発に努めた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：生涯学習の核となる総合施設として、学習室や展示室、図書館、視聴覚室等整備され、活動が十分機能しています。中央公民館、小川地区公民館、志賀野地区公民館とも活動が盛んになり、サークル、講座の数も増えてきていることは、住民相互の文化創造、教養の向上の場として、また住民の相互の交流の場として着実に発展してきていると思います。運営について、公民館審議会、館長、公民館主事が連携し、実績・現状を把握しつつ、今後の展望を描いていることは大きな成果に繋がっていくことと思います。

また、公民館が設置されていない地区では、世代交流センター、真国区民センター、集会所等を利用し、活動できるよう関係機関と連携されていますので、さらに地区での文化の発展が期待されます。

課題・方向性：講座・サークル活動の場として集会所等も含め、公民館が大いに活用されている。今後、新しい講座やサークルの育成と高齢化により、現在、活動している団体の維持を図っていく必要がある。

6. 花いっぱい運動花苗配布事業

目的： 花を育て、豊かな心を身に付けると共に、地域の交流と親睦の輪を広げ「心ひとつに町づくり」を目標に取り組む。

内容： 町内の道路や公共施設に、8,000株の花を配布して、各団体に花の管理を委託した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各種協力団体や各区長に働きかけて公共施設への植え付けを行ったり、学校と連携して環境教育の一環として取り組まれたりされてしています。このことは、町民全体美化意識の向上とともに互いの交流の場を与えています。花苗の管理には難しいところもありますが、来る国体に向けていっそうボランティア活動や個人々の家庭ガーデン活動としての輪が広がるよう働きかけていただきたいと思います。

課題・方向性：管理協力団体の高齢化等により、人員が減少しつつあります。

平成27年に行われる和歌山国体を見据えた植栽も視野に入れて検討が必要である。

7. 家庭教育

目的： 多様化する社会環境の変化に対応するため、家庭教育の推進を図る。

内容： 就学前の児童を対象に保健福祉課、保育所、教育委員会の情報交換の場として「はぐくみ会」を定期的に行っている。家庭教育学級と称して、各部署と連携の基、保育所や紀美野町子育て支援センターにおいて、親子のふれあいの場、子育て情報の交換の場として「絵本カレンダーづくり」、「カブラ教室」を行った。

判定： 3 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：就学前の子どもを持つ親を対象にした「子育て教育」を目的としています。町内では、年々出生数も少なく、家庭も各地に点在しています。そのため子育てについての悩みや不安は大きなものとなっています。このような中、「はぐくみ会」では、保健福祉課、保育所との連携を図り、子育て支援・就学指導が行われております。また、支援センターにおいて、親子ふれあい場や情報交換の場

としての「絵本カレンダーづくり」や「カプラ教室」など、計画的に行われていることは、大変心強く思います。

今後とも、日常的に育児について情報交換を行ったり、高齢者の方から助言などいただいたりできるよう工夫していただきたいと思います。

課題・方向性：子育て支援センターを拠点として、はぐくみ会と連携しながら推進していく。

8. 高齢者教育

目的： 高齢化社会における生きがいつくりを重点に学習意欲を向上させる。

内容： 地域サロン活動団体の活動の場づくりと世代間交流を目的として、ふれあいルームや中央公民館活動に参加している子どもたちと一緒にスポーツ、料理、手芸等のイベントに指導者として参加（参画）する場づくりを行った。

希望ヶ丘・福井サロンの皆さんを対象に講師を招き、カプラ体験教室（知育玩具）を開催した。

判定： 3 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：保健福祉課管轄の地域サロンの参加の高齢者の活動の場となっています。「やりたい」ことが「できた」という成就体験が生きる力を生み出します。こうした取り組みが各地区それぞれに工夫した高齢者学級が持たれていることは、まさに生涯学習そのものと考えます。さらに、地域サロンなどで学んだ成果を広く公開し、たとえば高齢者展などを開催し、多くの方の参加を呼びかけるようにしていただきたいと思います。

課題・方向性：保健福祉課において地域での健康づくり、生きがいつくりに取り組んでいる「地域サロン活動」が定着化してきているため、今後も高齢者の参画できる場を設け、学習意欲が増すように連携を図っていく。

9. 人権教育事業

目的： 人々は生まれながらにして固有する人権を護る精神にたって差別や偏見を無くす活動を通し、明るい社会の実現に寄与する。人権尊重の精神に徹し、身近な生活における人権に対する感性を磨き、人権意識の高い町づくりを行う。

内容： 関係の各行政機関、各種団体が連携した「紀美野町人権委員会」が中心となり、各区会と協力し、紀美野町を4（東野上、小川、志賀野、美里）ブロックに分け地域別研修会を開催するなど啓発に努めた。また、人権教育、啓発を総合的に理解し、各々のセクションでも主体的に発揮できるよう、議会議員、役場関係職員、町内企業、事業所、PTAを対象に研修を行った。

啓発冊子男女共同参画基本計画を基に、概要版「手をつなぎ共に支えあう美し

い町きみの」の作成や人権パンフレットを保育所、小中学校、各種会議、地区懇談会等の際に配布し、研修資料とした。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：「紀美野町人権委員会」として組織だっており、積極的に各ブロックで継続的に取り組まれています。また、町民大学講座の情実やPTA研修会、家庭教育学級、人権パンフレットの配布などの取り組みで、ごく自然に人間として正しい生き方が育まれているのではないかと思います。ただ、近年時代の変化とともに児童や高齢者への虐待、いじめ、暴力、インターネット犯罪等、さまざまな非人間的行為が顕著であります。その中で、町民大学講座の一つに人権に関する内容も考慮されていることは大変結構であると思います。今後とも、各ブロックでの研修の中でも時代に見合った研修内容になるようさらに検討を加えていただきたいと思います。また、各地区少ブロックでの積極的な研修を期待します。

課題・方向性：仕事や家事で学習会や研修会に参加できない対象者への啓発のあり方や、企業・事業所に対しての人権教育・啓発の方法等気軽な参加を地域人権委員と共に検討し、呼びかけ推進したい。

10. 放課後子ども教室推進事業

目的： 子どもたちの放課後の安全・安心な活動拠点として、地域の協力を得て子ども達と共に勉強やスポーツ等に取り組み、心豊かで健やかに育む環境づくりを推進する。

また自主性や仲間との協調性を身につけること、日ごろの生活を振り返りかえる機会を設けた。

内容： ふれあいルーム

中央公民館と文化センターに「ふれあいルーム」を設置している。毎週水曜日には、絵本読み聞かせ、工作、スポーツなどミニイベントを行った。

学習活動を行い、放課後の子どもの居場所として取り組んだ。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：毎水曜日、町内2か所に設置されている「ふれあいルーム」では、子どもたちが宿題をしたり読書したりしながら自立した生活を送っている。また、計画的に行われる絵本の読み聞かせや工作、スポーツ等のイベントでは、子どもたちにとって、学校とは別の充実した居場所となっています。今後とも子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを続けていただきたいと思います。

課題・方向性：ふれあいルームについては、今後も子どもたちができるだけ参加しやすい環境を整え遊び学べる場を提供していく必要がある。また、高齢者との世代間交流や地域の方々とのかわりかきももてる事業を盛り込む必要もある。

通学合宿については参加希望者を最大限参加できるように配慮し他校の児童と

の交流も考えて事業展開を図り、地域ボランティアの方々の積極的参加を呼び掛けることも重要である。

内容： 通学合宿

町内小学校4年生以上を対象に中央公民館と自然体験世代交流センターで2泊3日の通学合宿を開催し、計36名の児童が参加した。児童たちは集団生活を通し、周りと協力することや、家族に感謝することについて学び、地元の方やボランティアとの交流も深めることができた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：何もかも与えられるのが当たり前のような生活を過ごしている子どもたちにとって、子どもたち自身で生活をつくる経験は、何物にも代えがたい貴重なものです。ボランティアでサポートをいただく更生保護女性会や大学生、地域の方々との触れ合いも、大人の方の存在の大きさ、ありがたさをも実感する機会となっていると思います。今後とも未体験者の希望を優先して取り組んでいただきたいと思います。

課題・方向性：期間が短いため、町内小学校の交流を深めるまでには至らないのが現状である。また、学校間の距離が長いため複数力所の開催となる。

11. みさと天文台事業

目的： 星を学習するという側面の活動だけでなく、紀美野町の財産のひとつである美しい星空を楽しみ、心豊かな生活につなげられるよう、子どもから大人までを対象にした幅の広い活動をする。

内容： 夜間の星空観察会だけでなく、日中でもイベントを定期的に行っており、天文教室等では、その時々の特ピックスを取り上げる講演形式のものなど、様々なアプローチで星空や自然に触れるイベントを行っている。国立天文台との連携の中では、国立天文台の研究者による講演会が継続されている。様々な天文現象の折には臨時に観察会を開催し、その時にしか見ることのできない現象を一人でも多くの方に提供できる機会を設けた。とくに平成24年度はマスコミでも『天文現象「金」の年』として取り上げられる天文現象がいくつもあった。金環日食(5/21)では天文台職員などが指導役となり町内全小中学校で観望会を実施し、全校児童生徒や保護者ら合わせて1,000名ほどが日食を見た。平成23年度に実施したイベントで、手作りした日食メガネを使って観察した方を含めると、多くの人が日食を見たと思われる。金星の太陽面通過(6/6)では南海和歌山市駅前での出張観望会を行い、通勤途中の方々200名あまりに太陽望遠鏡などを覗いてもらった。金星食(8/14)では寺山スカイスポーツ基地の協力を得て紀の川市で観察会を実施した。またペルセウス座流星群(8/12)の観望会を紀美野町文化センターで実施し200名を超える方々に流れ星を楽しんでいただいた。このように天文台で待ち受けるのではなく、外へ出での活動に重点がおかれた年であった。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：夜間だけでなく、日中でも定期的なイベントを実施したり、また学校にも求めに応じて専門の先生が駆けつけてくださったりすることは大変ありがたいことです。また、様々な天文現象の折に臨時に観察会を開いて、多くの方に天文に関する興味や関心を広められていることは、天文台の役割を十分果たしていると思います。特に24年度は『天文現象「金」の年』として、金環日食観望会や金星太陽面通過出張観望会など、それぞれの取り組みが町内を超えて天文台存在の大きさを広められたと思います。

本町を特色付ける天文台。今後とも、その専門的内容などを住民に分かりやすく広めていただきたいと思います。

課題・方向性：今後もより一層、積極的な情報交換や活動を行い天文台をアピールし、天文台への来台者を増やす努力を続ける必要がある。

12. 文化センター事業

目的：心豊かな文化振興の実現を図り、町民の教養と文化性を高め豊かな感性を磨くために文化振興事業に取り組み専門性の高いホールを有効に活用する。

内容：文化センター審議会、文化センター長、公民館や文化団体と連携し、あるいは事業者が文化センターを使用することにより、紀美野町民に文化性の高い催しを提供した。

宝くじまちの音楽会では、南こうせつ「ウーファン心の歌コンサート」、自主事業として、関西フィル管弦楽団「フルオーケストラコンサート」を実施しました。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：近隣地区にないレベルの高い音響設備の整ったホールを持っています。そのため、コンサートなどの催しに際しては、町内外だけでなく他都市や他県からも参加されると聞いています。また、ロビーではさまざまな文化性の高い作品が掲示されておりセンター全体が質の高い香りを醸し出していると思います。

今後とも専門性の高いホールが有効に活用されますよう、関係団体とも連携を取りながら効率的な運営を図っていただきたいと思います。

課題・方向性：好評を頂いていますのでさらに住民のニーズに応えられる文化振興事業の取り組みと専門性の高いホールの有効な活用に努める。

13. 地域共育コミュニティ推進事業

目的：地域ぐるみで子どもを育てながら、大人も共に育ち、育て合うことができる地域社会づくりを目指して、学校・家庭・地域と連携を図っていく。

内容： 全中学校区において地域共育コーディネーター4名の協力の下、定期的に交流会をもち、情報交換を行いながら、学校運営に地域の方々の参加を推進している。

また、児童生徒が地域の清掃やお祭り等に参加し、地域の担い手、地域の一員である認識を促すとともに、地域との交流活動に取り組んでいる。

町内の高等学校においても施設を地域に開放して、交流の場にするため積極的に取り組んでいる。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：学校・家庭・地域が子どもを中心に据えて、互いに協調しながら子供の教育に当たっていく事業です。そのため本町では4名の地域共育コーディネーターの果たす役割が大きいと思います。24年度は、地域の清掃やお祭り等の参加、地域にある高等学校の開放による交流などが行われています。それぞれの活動において、子ども・保護者・地域の方が一体となって子供も大人も共に理解し合うことができたと思います。

また、学校に対する敷居が高いと感じていたものが、この事業のおかげでずいぶん改められたと思います。今後も、各学校がコーディネーターと連携を深め、より充実した取り組みが行われますよう期待します。

課題・方向性：学校と地域が密接に関わり、地域ぐるみで子どもを育てるという意識を持ってもらうことを目的に実施してきたこの事業も開始して5年目を迎えることとなった。今後も、学校と地域が創意工夫を凝らし補助金に頼ることなく、共育コミュニティ事業を展開していくことが必要である。

14. パークゴルフ・ゲートゴルフ事業

目的： 生涯を通じて生き生きとした充実のある生活を営む一つの方策としてスポーツを通じた活動を展開する。

内容： パークゴルフ

*春大会（5月、参加者：104名）*夏大会（7月、参加者：147名）

*秋大会（11月、参加者：93名）*チャンピオン大会（3月、参加者：174名）参加頂き開催した。

*指導員・アドバイザー認定講習会及び研修会を行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：日常は町内外から中高年の方々を中心に多数楽しんでます。また、年4回の大会の開催は参加者の目標意識を高め、生活にはりをつくるもととなっています。いずれにしても、パークゴルフを通してその楽しさとともに互いに心を和ませていくことは、日々 充実した生活を営むことに通じていくものです。

今後とも国体デモンストレーションスポーツとして、一層の参加者を広げ継続を図っていただきたいと思います。

課題・方向性：後継者の育成及び活動の拡充対策が必要である。また、紀の国わかやま国体のデモンストレーションスポーツ競技として、普及啓発活動につとめていきたい。

内容： ゲートゴルフ

＊県大会3回開催、（6月・11月、国体開催記念 参加者合計：354名）

＊チャンピオン大会（3月、参加者：84名）を開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：本町の参加者にとって、ゲートゴルフ発祥の地としての誇りを持って、健康づくりとともに心も和ませる時となっています。県大会3回、チャンピオン大会回と段階的に計画されているところは、ゲートゴルフに対する向上心をも高めています。さらに、2015年の国体開催に向けて、啓発活動を考えた取り組みも行っていただきたいと思います。

課題・方向性：ゲートゴルフ発祥地としての啓発活動と後継者の育成が必要である。

15. ふれあいマラソン大会事業

目的： 走ることを通して、紀美野町の美しい自然や文化、そして人とふれあうことで、紀美野町を全国にPRすると共に、人々の健康増進と交流を図り、心身の健全育成と相互の親睦を推進する。

内容： アップダウンに富んだロードレースのクォーターマラソンとパークゴルフ場の芝生の上を走るクロスカントリーレース、また誰でも気軽に参加できるウォーキングを開催し、子どもから高齢者まで幅広く参加することができるため町内はもちろんのこと町外、県外からも多くのエントリーがあり紀美野町を対外的にPRすることができた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：単にマラソンの速さを競うだけでなく、本町について自然・文化などを県内外の参加者に体感してもらえる絶好の機会でもあります。特に、参加者が多いのは、全国へのPR活動もさることながら、気軽にウォーキングできる種目を設けていることからではないかと思えます。多くの参加者にとって楽しみとともに自ら健康づくりの意識を高揚させています。お手伝いのボランティア募集に苦慮する点もあると思いますが、年々大きな成果を上げていることから一層盛大になるよう努めていただきたいと思います。

課題・方向性：多くの選手の参加やボランティアのお手伝いにより運営ボランティア意識の高揚と紀美野町のPR及び町外・県外の方々との交流をより一層深めたい。

16. スポーツ少年団活動事業

目的： 次の時代を担う青少年の健全育成を推進するため心身と体力の向上を図る。

内容： スポーツ少年団活動団体〔野球、バレーボール、剣道、サッカー、新体操、空手、少林寺拳法、バドミントン、陸上、バスケットボール〕が活発に活動できる支援に努めた。各少年団とも継続的な練習と熱心な指導もあり、各種大会で上位入賞や県大会への出場があった。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 少子化傾向の中で、スポーツ少年団の数が多くなっていることは、子どもにより一層対応を進めてきていることの現れでもあると思います。その中で、種目によって県大会や上位入賞などに良い成績を収められたことは大きな成果であると思います。今後とも勝ち負け至上主義に陥らず、個々の子供の忍耐力や協調性などに心がけて取り組んでもらいたいと思います。また、来る2015年の和歌山国体に向けて、ホッケー競技などに関心を集め、幅広くスポーツ少年団活動に努めていただきたいと思います。

課題・方向性： 児童の減少による新入団生の確保に努めると共に、スポーツの楽しさを知り、友達とのふれあいを目的としたイベント等の開催を行う。

17. 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会

目的： スポーツの振興と青少年の健全育成を図ると共に紀美野町の活性化に資する。

内容： 指導者のもと昨年の練習開始時期より2ヶ月早め、6月下旬から放課後や土曜日・祝日に合同練習を開始し、各学校においても担当者の先生方に、上位入賞を願って、早朝や放課後に練習を行って頂きました。

年末には小学生の選手選考を行い、チームを引っ張ってくれた。62回の合同練習と4回の試走、各マラソン大会への参加をし、ジュニア駅伝本番では2チームが出場し、Aチームは10位入賞、Bチームは34位という結果であった。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見： 昨年度より2か月前倒しして計画的練習に励んでおられます。朝と放課後、あるいは土・日、祝日等の合同練習などを精力的に取り組まれた結果、近年好成績を収めています。これは、子どもたち自身の頑張りもさることながら指導者の方々の惜しまぬご尽力のおかげであります。選手だけでなく、他の子どもたちのマラソンに対する見方考え方も高め、自らも体力アップや健康増進のために生かされるものと信じています。

課題・方向性： 児童・生徒数が年々減少する中で、出場選手の確保に努めなければならない。又、練習量を増やすため、練習時期を早め上位入賞を目指す。

18. スポーツ・レクレーション大会

目的： 町民相互の健康増進と親睦を図り、スポーツの発展と文化の向上に資する。

内容： スポーツ公園、農村総合センターにおいて、カローリング、ホッケー教室及び練習試合、ゲートゴルフ・ソフトバレーボール・ペタンク・陸上競技を開催した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：日ごろ勤務している大人の方にとって、この大会は自らの健康増進に生かせるだけでなく、参加者との心からの交流が図られています。ホッケー教室など国体開催に向けての取り組みも加えられ、参加しやすくなっています。町民の相互の親睦と健康増進を図る事業で、町民も楽しんで参加していることと思います。今後も参加者が固定化しないよう、機会を通して多くの方に広めていただきたいと思います。

課題・方向性：陸上競技を取り入れたことによって、子どもの参加が増えたが、今後も若い世代の方に多く参加してもらえるよう取り組んでいきたい。

19. ナイター走ろう会

目的： 町民のスポーツの振興、青少年の健全育成と体力の向上を目指す。

内容： スポーツ公園において7月・8月・9月と合計3回実施し、種目は100m、1000m、2000m、3000m、5000mと5種目行い好評であった。また、空き時間を利用してホッケー体験教室を人工芝グラウンドにおいて開催した。

判定： 4 今後の方向性：継続

評価委員の意見：近年ジョギングやマラソンがブームになっています。夜路上をジョギングする姿を目にすることも多くなりました。日中は参加できない人も夜涼しくなってきたとやってみたいという思いにもなると思います。この会は、7月～9月にかけて、種目数も多く、誰でも気軽に参加できる体制を整えられています。また、記録証の交付も参加意欲を高めたり、ホッケー教室を開いたりして工夫を重ねられています。今後ともより一層参加できる体制を整え、自らの体力づくりに励むとともに、互いの交流をも深められるように工夫をお願いします。

課題・方向性：コース、記録証発行等の見直しを行い、スムーズに実施することができたので、今後も実施していきたい。

20. 町広報誌「ふれあいネット」

目的： 生涯学習の取り組みやできごとなどを町民に広く広報する。

内容： 毎月その時の文化事業やスポーツ事業に関するイベントの案内や生涯学習関係のトピックスやお知らせ等を「広報きみの」へ掲載する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：紙数が限られているので苦労されていると思いますが、それぞれの活動の様子が掲げられていて分かりやすくなっています。また、紀美野町の生涯学習・社会教育の特色、「紀美野町の歴史と文化」は本町ならではの特色が見られ興味深く思います。「天文台だより」や「学校だより」もその取り組みの一部が窺われ楽しみです。「歌の小道」も俳句や短歌に対して学ぶことに大きな刺激になっていると思います。

町民の多くは、この「ふれあいネット」を通じて各団体の活動ぶりを知ることになると思いますので、引き続き充実した内容を期待します。

課題・方向性：掲載する内容を吟味しながら今後も取り組んでいきたい。

国体推進課

1. 国体推進事業

目的： 2015年に和歌山県において第70回国民体育大会「紀の国わかやま国体」が開催され、紀美野町スポーツ公園人工芝グラウンドが、ホッケー競技における成年男女の競技会場となることから、実行委員会の設立と町民の気運醸成並びにホッケーに親しむ機会づくりと普及を図っていく。

内容： 実行委員会の設置については、国民体育大会開催基準要項に「会場地市町村は、大会運営のために実行委員会を設置する。」とあることから、所定の手続きを経て紀の国わかやま国体紀美野町実行委員会の設立を行った。

町民の気運醸成については、大会に向け徐々に高めて行くとともに、実行委員会の委員に、町内各種団体からの協力を呼び掛けることにより、老若男女を問わずより多くの町民が国体に参加できる機会が持てるように取組んだ。

ホッケーに親しむ機会づくりとしては、海南高校大成校舎ホッケー部が、和歌山県ホッケー協会主催の競技会に参加。また、同部への国体関係町補助金の支援を受けて、ナイター走ろう会において、ホッケー教室を行った。

判定： 4 今後の方向性： 拡大

評価委員の意見：第70回国民体育大会の会場が和歌山県と決定され、以後本町では「ホッケー会場」地としてその取り組みが着実に進められてきています。海南高校大成校舎ホッケー部が競技会に参加したり、ナイター走ろう会においてホッケー教室を行ったりしていることは、取り組みの積極性を感じます。また、町内各団体への協力の呼びかけも計画的に進められています。このようなことから、町民が国体に参加しようという意識が少しずつ高まりつつあると思います。しかし、ま

だ町民の隅々まで浸透していないように思われます。今後とも、老若男女を問わず、町民みんなが参加していくという気運が高まるよう、さまざまな工夫と具体的な取り組みを期待します。

課題・方向性：ホッケー競技は、まだまだ人々の身近なスポーツとして浸透していないため、国体開催時の集客数もあまり多くないので、どのように今国体を盛り上げて行くか、また、国体を機に町民に活気を呼び起こせるか検討してゆく必要がある。